

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長 福島 保

<小学生の母親を対象とした小学生の夏休み調査>

夏休みの宿題、「少しずつ計画的に」した小学生 4割、「最後にまとめて」は 1割

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市)のシンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」は、全国の小学生をもつ母親 4,644 名を対象に、「小学生の夏休み調査」を 2009 年 9 月に実施し、子どもの夏休みの実態、夏休みに関する保護者の意識を調査しました。主な調査結果は、以下のとおりです。

1. 夏休みの宿題、「最後にまとめて」やった小学生は 1割

- ・自分の子どもが夏休みの宿題をやった時期をたずねたところ、「少しずつ計画的にやった」(43.9%)が最も多く、次いで「最初にまとめてやった」(27.1%)で、「最後にまとめてやった」のは 10.0%だった。
- ・また「宿題をしなさいと声をかけた」保護者は 70.0%であり、保護者の働きかけが多いこともわかった。

2. 活動体験が多いほど、子どもは夏休みを「楽しんでいた」と回答

- ・夏休みの体験として最も多いのは「プールに行く」が 78.8%(複数回答)が最も多く、ついで「お祭り・盆踊りに行く」(71.0%)、「花火見物に行く」(52.0%)などのイベント・行事への参加があげられた。
- ・子どもが夏休みを楽しんでいたとする比率は、体験数別でみると 19 項目中「8 つ以上」選択したグループでは 45.2%(「とてもそう思う」の%)で、「4 つ以下」では 26.5%と 20 ポイント近くの差がみられた。

3. 活動体験が多いほど、保護者の経済的負担も大きい

- ・夏休みにかかるレジャー・旅行の費用は、世帯平均で 82,474 円であった。なお体験数「8 つ以上」で 99,639 円、「4 つ以下」で 68,259 円と 3 万円以上の開きがみられた。

4. 夏休みは「成長するよい機会」が 81.8%

- ・夏休みに対する母親の意見として、「夏休みは子どもが成長するよい機会」が 81.8%(とても+まあそう思うの%)であった。
- ・さらに母親の就業状況別では、専業主婦で「世事に疲れる」(62.9%、とても+まあそう思うの%、以下同)、フルタイムで働く母親で「もっと子どもと過ごしたい」(83.1%)の比率が高く、就業状況により母親の悩みは異なる。しかし「夏休みを過ごして子どもが成長したと感じる」はほぼ同じ比率であった。

夏休みの宿題は「少しずつ計画的にやった」小学生が最も多いものの、保護者からの働きかけも少なくないことがわかりました。ただ宿題をやらせるだけではなく、自分で計画を立てて学習ができるような習慣づくりについても働きかける必要があると考えます。

また夏休みは子どもがさまざまな体験をすることから、多くの母親は、子どもの成長を実感していることもわかりました。こうした夏休みの体験には、経済的な負担や家庭の事情がともなうのも事実ですが、地域の催し物や家のお手伝いなど、地域社会や家庭でできる夏休みの体験の機会を積極的に利用することも、子どもの成長にとって必要であると考えられます。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ベネッセコーポレーション 広報部 (担当:十河、坂本、濱野、西沢)

電話:042-356-0657 FAX:042-356-0722

■調査概要■

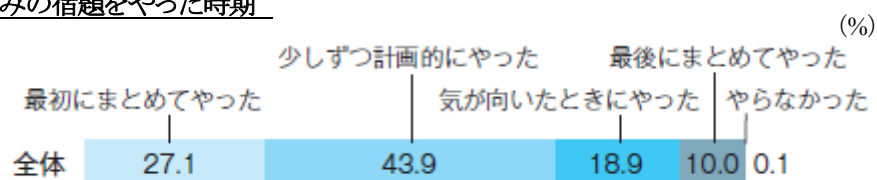
時期	2009年9月
方法	インターネット調査
地域	全国
対象	全国の小学1年生～6年生の子どもをもつ母親 4,644名
調査項目	夏休みの生活時間(就寝・起床の平均時間、遊びの時間、家庭学習の時間など) / 夏休みの充実度 / 外泊体験 / 夏休みの体験 / 夏休みにかかるレジャー・旅行の費用 / 夏休みの宿題(学年別の内容、自由研究のテーマ、保護者の関与、保護者の意見など) / 夏休みの過ごし方(重視したこと・できたこと) / 夏休みに関する保護者の意見など

■調査結果概要■

1. 夏休みの宿題、「最後にまとめて」やった小学生は1割

・「夏休みの宿題をやった時期」をたずねたところ、「少しずつ計画的にやった」(43.9%)が最も多く、ついで「最初にまとめてやった」(27.1%)であり、「最後にまとめてやった」は10.0%と少数派であった。

図1 夏休みの宿題をやった時期



・夏休みの宿題への保護者の関わりを図2に示したが、「宿題をしなさいと声をかけた」が70.0%であり、保護者の働きかけが多いこともわかります。

図2 夏休みの宿題への保護者の関与



*複数回答。

2. 活動体験が多いほど子どもは夏休みを「楽しんでいた」と回答

・「プールに行く」78.8%、「お祭り・盆踊りに行く」71.0%、「花火見物に行く」52.0%、「ラジオ体操に行く」51.8%などの体験は、夏休みの定番であるといえます。

図3 夏休みの体験

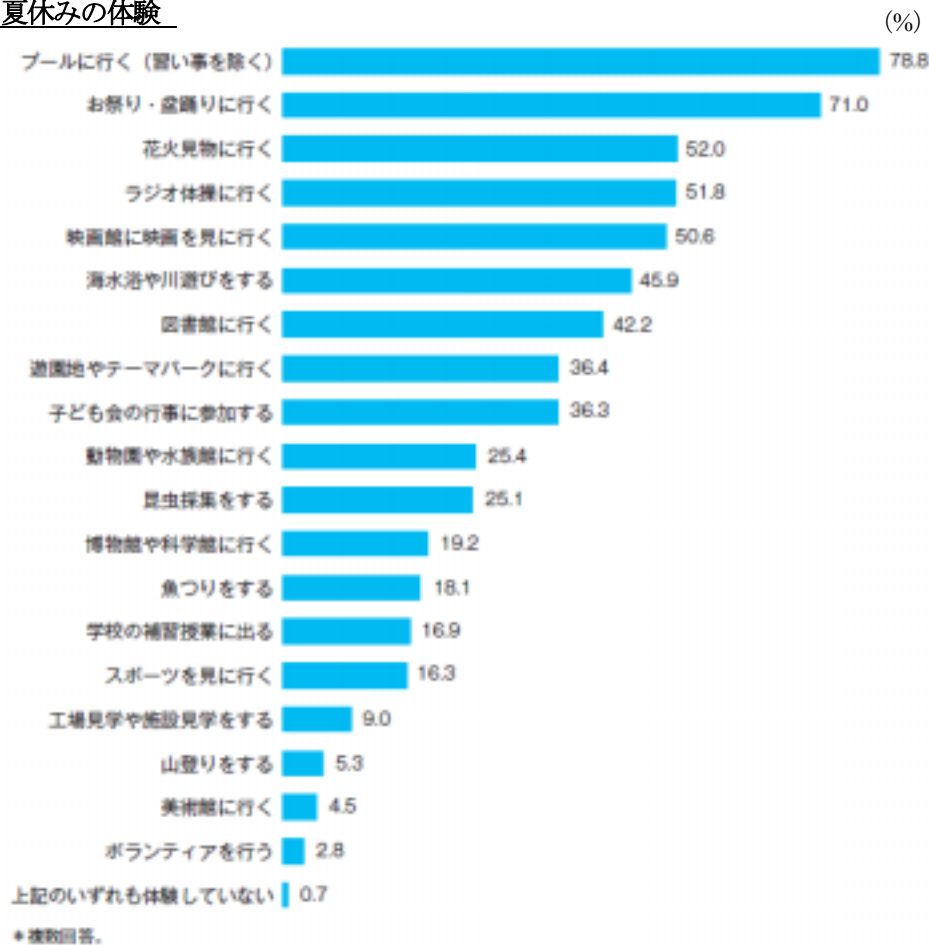
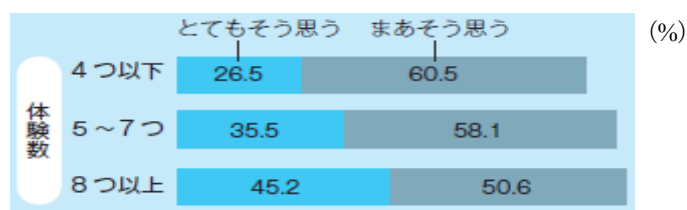


図4 子どもは夏休みを楽しんでいた

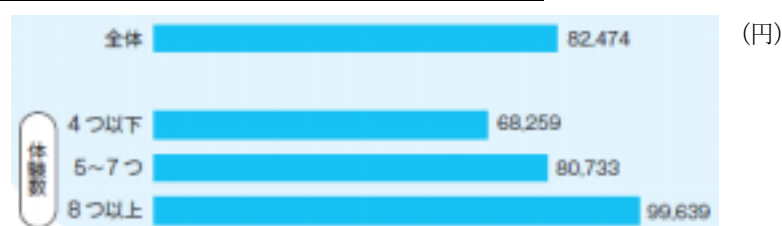


注) 体験数は、図3にあげた19項目を選んだ数。

3. 活動体験が多いほど、保護者の経済的負担も大きい

・夏休みにかかるレジャー・旅行の費用は、世帯平均で82,474円であった。なお図3の19つの選択肢のうち、体験数「8つ以上」で99,639円、「4つ以下」で68,259円と3万円以上の開きがみられた。

図5 夏休みにかかるレジャー・旅行の費用(世帯の平均総額)



注) 体験数は、図3にあげた19項目を選んだ数。

4. 夏休みは「成長するよい機会」が 81.8%

・夏休みに対する母親の意見として、「夏休みは子どもが成長するよい機会」が 81.8%（「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%、以下同）で、実際に「成長したと感じる」も 64.2%であった。さらに就業状況でみた母親の悩み（図 6-2）は異なるものの、「夏休みを過ごして子どもが成長したと感じる」ではほぼ同じ比率（図 6-3）であり、いずれの就業状況であっても子どもが成長することの実感に差はみられなかった。

図 6-1 夏休みに関する保護者の意見

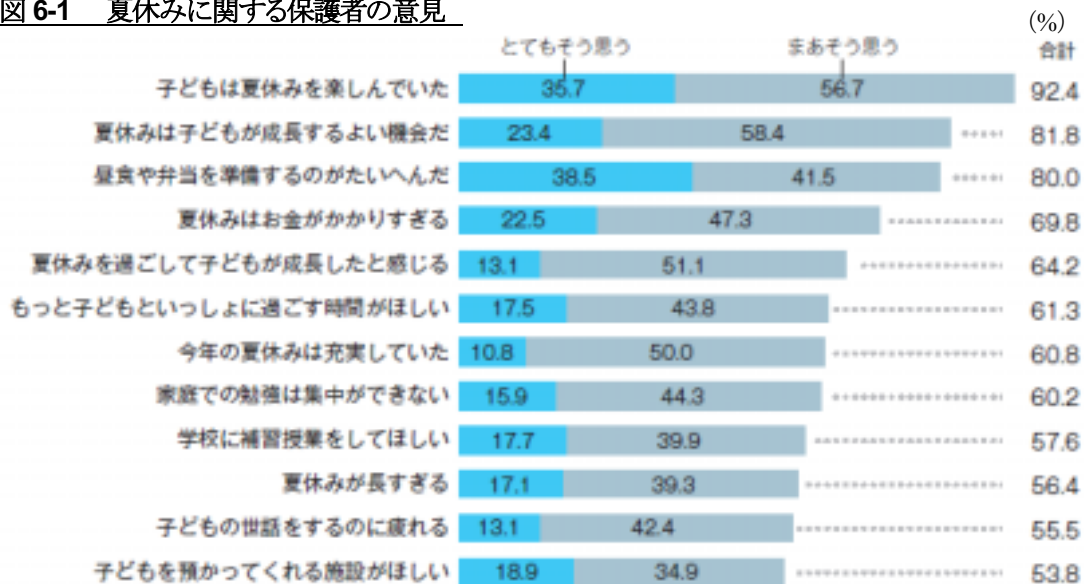


図 6-2 夏休みに関する保護者の意見(就業状況別)

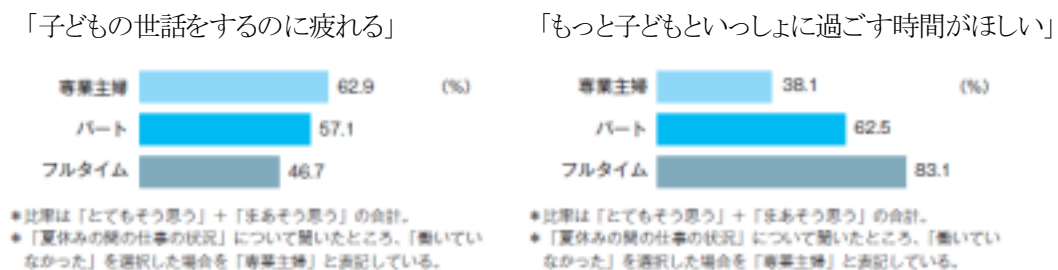
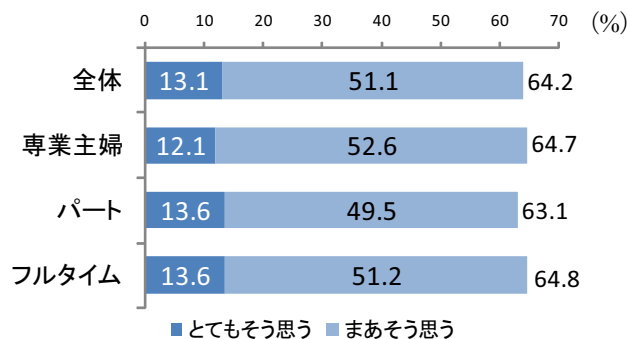


図 6-3 夏休みに関する保護者の意見「夏休みを過ごして子どもが成長したと感じる」

(就業状況別)



< Benesse 教育研究開発センターの活動 / Benesse 教育情報サイトでの情報提供について >

- Benesse 教育研究開発センター (<http://benesse.jp/berd/>) では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。⇒ 今回の「小学生の夏休み調査」の詳細もこちらのサイトでご覧いただけます。
- Benesse 教育情報サイト (<http://benesse.jp/>) では、ベネッセが保有する教育関連のデータを公開しています。